

2025年12月12日

各位

Arcserve Japan

**『Arcserve® UDP 10.3』 および
『Arcserve® CRS 1.5』
リリース情報のご案内**

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、ランサムウェア対策の最後の砦となる Arcserve Unified Data Protection (UDP) および Arcserve Cyber Resilient Storage (CRS) の最新版をリリースする運びとなりましたのでお知らせいたします。

ランサムウェア対策を強化できる最新機能が含まれるため、最新リリースへの早期アップデートをご検討ください。

詳細は別紙をご覧ください。

別紙 1 『Arcserve UDP 10.3』 リリースのご案内

別紙 2 『Arcserve CRS 1.5』 リリースのご案内

今後とも「Arcserve® シリーズ」の拡販にご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご不明な点につきましては、弊社 営業部（Tel：03-4520-0640）までご連絡いただきますようお願い致します。

敬具

別紙 1

『Arcserve® UDP 10.3』 リリースのご案内

Arcserve UDP 10.3 に含まれる主な点は以下です。

新機能と機能拡張

アシュアード セキュリティ- AI 異常検出: AI を活用してバックアップ データ（復旧ポイント）を検証することで、バックアップ対象サーバでのランサムウェア活動の兆候を検出します。検出されるランサムウェア活動には、不審なファイル名、暗号化パターン、大量削除、リネームなどが含まれます。これによりサイバー攻撃の検知層が強化され、企業/組織のサイバー レジリエンスを高めます。この機能を利用するには Arcserve UDP Premium Edition 以上が必要です。

Arcserve Cloud Cyber Resilient Storage（クラウド CRS）および Arcserve Cloud Storage

（ACS）での Web プロキシ環境サポート: クラウド CRS および ACS で、Web プロキシ環境をサポートするようになりました。Web プロキシ経由でインターネットに接続し、クラウド CRS / ACS を使ったデータストアを構成できます。

新しいプラットフォームのサポート:

Linux OS（エージェントベース バックアップ）

Red Hat Enterprise Linux 10.0

Oracle Enterprise Linux 10.0

Rocky Linux 10.0

AlmaLinux 10.0

Debian 13.0

SUSE Linux Enterprise Server 15 SP7

ハイパーバイザ（仮想マシンのエージェントレス バックアップ/仮想スタンバイ/インスタント VM）

Nutanix AOS 7.0, 7.3 に同梱される AHV

VMware vSphere 9.0

アプリケーション

Microsoft Exchange Server SE

Arcserve UDP 10.3 に含まれるその他の機能や不具合修正は、以下のリリース ノートをご参照ください。

◇ [Arcserve UDP 10.3 リリース ノート](#)（2025 年 12 月 15 日公開予定）

https://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/10.0/JPN/Bookshelf_Files/HTML/Update3/default.htm

Arcserve UDP 10.3 のダウンロード方法は以下のナレッジ ベースをご覧ください。
インストーラーのダウンロードには Arcserve サポート ポータルへのログインが必要です。
(アカウントは無料で作成できます。)

◇ **Arcserve UDP 10.3 ダウンロード (2025 年 12 月 15 日公開予定)**

12 月 15 日(月)より[製品ダウンロード ページ](#)から入手いただけます。

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-3-Download-Link?language=ja>

◆ **Arcserve UDP 10.3 受注・出荷スケジュール**

【メンテナンス付きパッケージ製品およびメディアキット】

2026 年 1 月の提供を予定しております。

◆ 各ライセンス製品の価格、SKU、JAN コードについては変更ありません。

◆ サポート終了製品はありません。

◆ **補足**

今回リリースする Arcserve UDP 10.3 は、2024 年 11 月にリリースした Arcserve UDP 10.0 のマイナー リリースの位置づけとなります。そのため Arcserve UDP 10.x のライセンスをお持ちの方は無償で適用いただけます。

・旧バージョンをご利用中で有効なメンテナンス契約やサブスクリプション契約をお持ちのお客様は無償で適用いただけます。

・Arcserve UDP 10.x で登録したライセンス キーをそのままご利用いただけます。(キーの入れ替えは不要です。)

・Arcserve UDP 10.3 は Arcserve UDP 10.0 と同じサポート ライフサイクルで管理されます。なお、「Arcserve UDP 10.x」と表記した場合は Arcserve UDP 10.0 および 10.0 の全マイナーリリース (10.1 など) が対象になります。

別紙 2

『Arcserve® CRS 1.5』リリース情報のご案内

◆ Arcserve® CRS 1.5 の主な新機能/機能拡張

本リリースの新機能/機能拡張は以下の通りです:

拡張 RAID パリティサポート: Arcserve CRS は、データ保護と耐障害性を強化するため、ソフトウェア CRS RAID における複数パリティをサポートします。管理者はプールに対して二重または三重パリティオプションを定義可能となり、RAIDZ1 よりも高い信頼性を確保できます。これは、大規模なストレージプールやドライブ障害が発生しやすい重要環境において効果を発揮します。

ホットスペアディスクのサポート: Arcserve CRS はソフトウェア CRS RAID においてホットスペア ディスクをサポートします。ドライブが故障した場合、システムは手動操作やダウンタイムなしに、指定されたホットスペア上で自動的にデータを再構築します。この機能によりシステムの信頼性が向上し、データ損失を防止するとともに、メンテナンス作業を削減します。

ジャンボ フレームのサポート: Arcserve CRS は、大容量データ転送時のネットワーク性能向上のためにジャンボ フレームをサポートします。より大きなイーサネット フレームによりプロトコル オーバーヘッドとパケット数が削減され、CPU 使用率の低下、ネットワーク輻輳の軽減、スループットの向上が実現されます。これらの改善により、レプリケーション、バックアップ、リカバリがより高速かつ信頼性の高いものとなります。また、データ検証や整合性チェック時の同期性の向上と遅延の低減を通じて、サイバー レジリエンスを強化します。

ネットワーク アダプタのサポート範囲拡張: 従来からサポートされていた RJ45 形式のイーサネットポートに加え、SFP/SFP+/SFP28 モジュールもサポートされるようになります。詳細は、[Arcserve CRS インストールおよびセットアップ ガイド](#)をご覧ください。

データストア移行サポート: データストア間のレプリケート機能を用いることで、Arcserve OneXafe ストレージから Arcserve CRS への効率的なデータ移行が可能です。

◆ Arcserve CRS 1.5 ダウンロード (2025 年 12 月 15 日公開予定)

12 月 15 日(月)より[製品ダウンロード ページ](#)から入手いただけます。

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-Cyber-Resilient-Storage-Download-Link?language=ja>

◆ 各ライセンス製品の価格、SKU、JAN コードについては変更ありません。

◆ サポート終了製品はありません。